

STOP! 転倒災害 みんなでやろう安全点検!

～ すべての年代に応じた、転倒災害防止のための環境づくりを目指して ～

福岡版

取組期間: 令和2年6月～令和3年2月

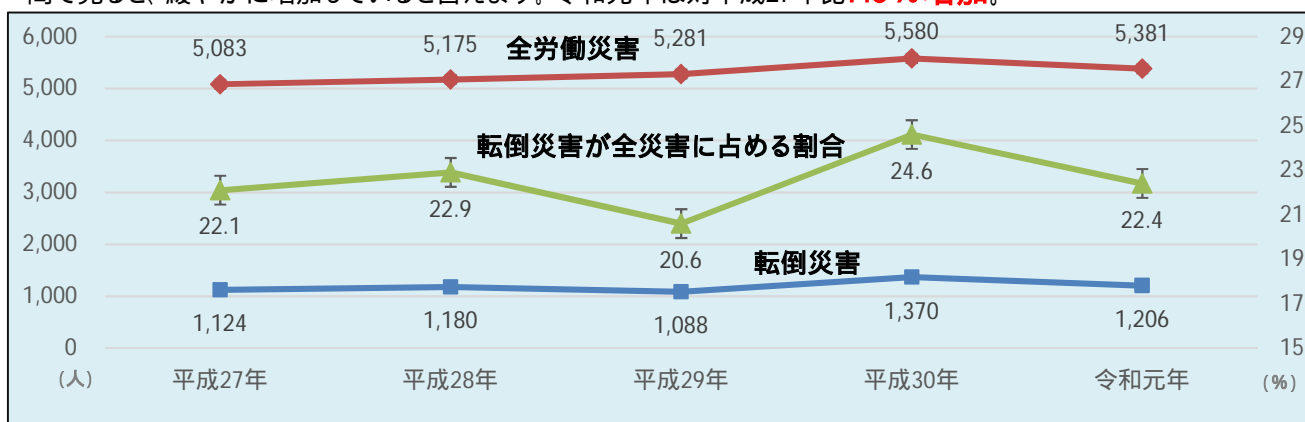
STOP! 転倒災害プロジェクト



特徴 1

転倒災害 は、最も多い労働災害で全体の**2割強**を占め、近年は緩やかな増加傾向にあります。

令和元年に県内で発生した転倒災害による死傷者数は1,206人で、昨年よりも減少しているものの、過去5年間で見ると、緩やかに増加していると言えます。令和元年は対平成27年比**7.3%増加**。

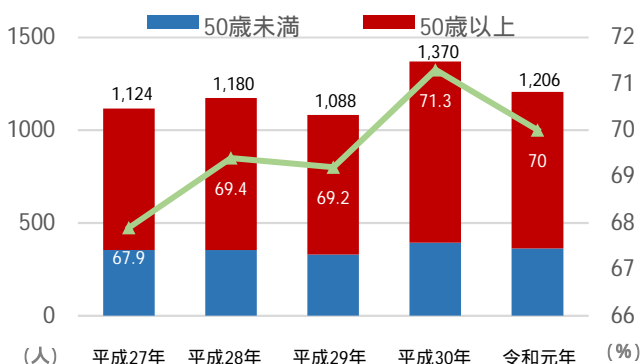


出所: 労働者死傷病報告



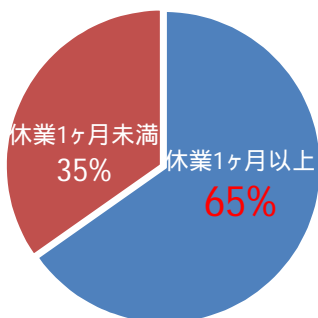
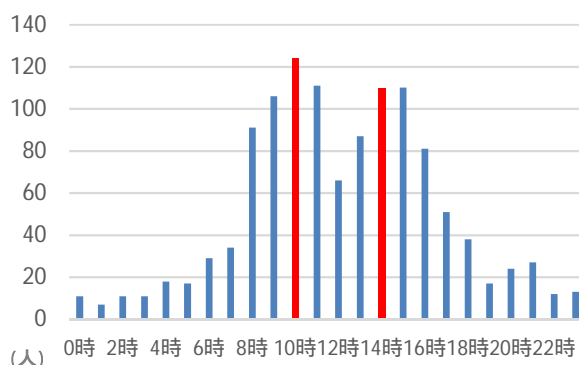
特徴 2

転倒災害
被災者の**約7割**が**50歳以上**です。
また高齢となるほど転倒するリスクが高くなります。



特徴 3

転倒災害
午前10時、午後2時前後
に多発しています!



特徴 4

転倒災害
休業期間: 1ヶ月以上が65%!



転倒災害【主な原因】

転倒災害の主な原因は、「**滑り**」、「**つまずき**」、「**踏み外し**」です。

転倒災害【防止対策】

1. **毎月1～7日に決まって、セーフティーチェック**を実施し、どの年代も安心して働くことができる職場環境づくりを目指してください！



セーフティチェック項目		✓
1	通路、階段、出入口に物を放置していませんか	
2	床の水たまりや氷、油、粉類などは放置せず、その都度取り除いていますか	
3	安全に移動できるように十分な明るさ(照度)が確保されていますか	
4	転倒を予防するための教育を行っていますか	
5	作業靴は、作業内容に適した耐滑性があり、かつ、サイズが合うものを選んでいませんか	
6	ヒヤリハット情報を活用して、転倒しやすい場所の危険マップを作成し、周知していますか	
7	段差のある箇所や滑りやすい場所などを標識などで注意喚起していますか	
8	ながらスマホやポケットに手を入れたまま歩くこと、手すりを持たない階段の昇降などを禁止していますか	
9	ストレッチ体操や転倒予防のための運動を取り入れていますか	

2. **転倒の原因を低減するため取組**を積極的に行いましょう！

リスク低減のポイント！ 転倒の主な原因は、**滑り(Slide)**、**躓き(Stumbling)**、**踏み外し(Stepping out)**の**3S**

令和元年に「STOP！転倒災害 ハザードチェック」を推進した結果、「ステッカー張り付けや危険マップの作成(危険の見える化)」や「**転倒予防の教育の実施**」「**転倒防止体操**」など、転倒災害防止のための取組みが**低調**であること、また、労働者数10人～49人の事業場規模で、**安全衛生推進者(安全推進者、衛生推進者)**が**選任されていない事業場が多い**ことが明らかとなっています。(50人以上の場合は安全管理者及び衛生管理者の選任が必要です。)

各事業場におかれましては、以下の3つの積極的な取組みが求められます。

- 見える化**
転倒災害リスクが高いところに注意を促す表示を行いましょう。

- 安全教育・ストレッチ体操の実施**
転倒予防の教育・転倒防止体操等を実施しましょう。

- 安全衛生管理体制の整備**
安全衛生推進者等を選任し、転倒災害防止に取り組みましょう。
(労働安全衛生法第12条の2、安全推進者の配置ガイドライン)

3. **高齢労働者対策**について、厚生労働省では、令和2年3月に「**高齢労働者の安全と健康確保のためのガイドライン**」(エイジフレンドリーガイドライン)を策定しました。このガイドラインは、高齢者を現に使用している事業場などで、**事業者と労働者に求められる取組**を具体的に示したものですので、是非ご活用ください。



4. 活用できる**資料**を紹介し、教材としてぜひお役立てください！

職場のあんぜんサイト
転倒災害視聴覚教材



健脚ぐるぐる体操

